

大学改革支援産学官フォーラム（仮称）「準備会合」 主な指摘事項

日時：平成 31 年 2 月 7 日（木） 10：00～11：30

場所：中央合同庁舎 8 号館 416 会議室

参加者：別紙

総論

総理発言にある「世界で最もイノベーションに適した国を創りあげる」ことを原点に議論を進めていくべき。

ダボス会議を見ても、世界がかなり混乱している。安倍首相が 6 月の G 2 0 で D F F T（Data Free Flow with Trust）を主導するということは、凄く強いメッセージで、これは千載一遇のチャンス。

メンバーシップ

フォーラムの参加大学については、すべての大学を対象とするのではなく、原則としてイノベーションを創出して日本全体を引っ張るトップランナーとしての研究大学を対象とするべき。（「研究大学コンソーシアム」の構成員である国公私立の 30 大学に参加を呼びかける。）

ただし、フォーラムの理念に賛同し、参加したいと手を上げた地方大学等の参加は認める。

場面によっては財務省の参加も検討すべき。

フォーラムの名称

名称が「大学改革」となっているが、産業界も変わらなければ大学の改革を進めることはできない。

「大学改革支援産学官フォーラム」というのはあくまで仮称。イノベーションハブや国際戦略を目指すような要素（Knowledge intensive や Global Knowledge 等）を入れた名称を検討。

議論の進め方

期間を区切って、具体的な政策提言に結びつくような内容のフォーラムにすべき。

まずはどういうアウトカムを狙うのかということを確認にした上で各論に入るべき。そのため、全体のビジョン、目標を定める委員会を設置。

大学と産業界の双方の研究力が低下している中で、産学連携と研究力向上は喫緊の課題。WG の中でも「産学連携」と「研究力向上」を先行させて実施するべきで、その中でガバナンスや財務経営等を論ずるべき。（WG の設置については今後検討。）

大学改革支援産学官フォーラム（仮称）「準備会合」出席者名

- 上 山 隆 大 総合科学技術・イノベーション会議常勤議員
- 五 神 真 国立大学法人東京大学総長
- 小 林 喜 光 株式会社三菱ケミカルホールディングス取締役会長
- 中 西 宏 明 株式会社日立製作所取締役会長兼執行役
- 野 路 國 夫 株式会社小松製作所取締役会長
- 橋 本 和 仁 国立研究開発法人物質・材料研究機構理事長
- 橋 本 孝 之 日本アイ・ピー・エム株式会社名誉相談役
- 松 尾 清 一 国立大学法人名古屋大学総長
- 山 極 壽 一 国立大学法人京都大学総長
- 【五十音順】
- 赤 石 浩 一 内閣府 政策統括官（科学技術・イノベーション担当）
- 飯 田 祐 二 経済産業省 産業技術環境局長
- 伯 井 美 徳 文部科学省 高等教育局長
 （玉 上 晃 文部科学省 大臣官房審議官（高等教育局及び高大接続
 担当）代理出席）
- 松 尾 泰 樹 文部科学省 科学技術・学術政策局長
- <オブザーバー>
- 小 谷 元 子 東北大学材料科学高等研究所長
 兼大学院理学研究科数学専攻教授